

令和3年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期（オンライン）
最終レポート

プログラムを振り返って

高澤美優

約5ヶ月間のプログラムが本当にあつという間に終わってしまい、充実感や達成感とともに寂しさを感じています。今回は授業と親善大使の活動を振り返り、それらをまとめたうえで私が考える「グローバルスピーカー」像を共有し、この学びを今後どのように生かすかについての計画を提示します。こちらの最終報告書を通じて、OSGSプログラムの魅力が伝われば嬉しいです。

● フィンドレー大学の授業

フィンドレー大学の授業テーマは日米のコロナ対応比較であり、私はスポーツ分野をリサーチ対象に取り上げました。昨年東京五輪が開催された際に、様々な制約があるなかでも目標に向けて力強く努力している選手の姿に心打たれ、日米のスポーツ環境に関心を抱いたからです。当初自分の求めている情報を容易に入手できるだろうと思っていましたが、現実には甘くなく、信頼できるリソースから情報を十分に集めるのは大変でした。もう少しテーマを狭めて論点を明確にすることで、より詳細なリサーチをすべきだったというのが反省点です。

現段階で挙げられそうな日米の共通点と相違点のキーワードは、それぞれオンライン指導と学校教育です。まず前者のオンライン指導について。ジムの閉鎖や外出制限を受けて、両国の選手はオンラインツールを活用して練習に励んでいたようです。練習している様子を撮影した動画や食事バランスの記録にコーチからフィードバックをもらうというのがその代表例です。今日、外国人のコーチから指導を受けるプロの選手も多いので、日米そのものというよりは個々のコーチによって練習方法に違いが出ると考えられます。次に後者の学校教育については、学校行事と体育の授業が子ども達にとってどのように位置付けられているかで差がみられました。日本では運動の好き嫌いによらず、体育祭に参加したり体育の授業に積極的な参加が求められたりするので、コロナ禍の様々な制限が幅広い子ども達の運動習慣と体育祭等の中止に伴うメンタルダメージに影響すると捉えられています。一方のアメリカは個人の尊重を重視していることから、運動嫌いの子ども達にとっては体育の授業の制限はそこまで影響がないと考えられているようです。

また授業では、上述の比較調査以外にも学術的な内容のプレゼンをする上で重要なポイントを習得できました。自分の言葉と他人の言葉をプレゼンの中でどのように区別して発表するかなどを学びました。これまでも所属大学でプレゼン指導を受けたことはありましたが、今回は5人という少人数クラスだったので質問をしやすい、不明瞭だった点をしっかりと理解できました。

- 親善大使を経験して感じる埼玉の魅力

今回、親善大使として埼玉の魅力を再発見できるような多くの機会をいただきました。県産スイーツの食レポ、クワイ農家の訪問、小川和紙体験、その他埼玉の魅力スポット紹介をするなかで感じたことを一言で表すならば灯台下暗しです。美味しい食べ物や素晴らしい伝統工芸品に溢れているのにもかかわらず、県民の大半はそれらを知らないのではないのでしょうか。魅力は必ずしも生産量ランキングなどの数値で測れるものではないと思います。

もっとミクロな視点で一つ一つの場所や製品と向き合い「埼玉」を五感で味わうなかでこそ、その魅力を感じられるはずです。例えば、さいたま市のクワイについて。一般的には日常の食卓であまり目にしないクワイですが、ジャガイモのようにほくほくとしながらも、程よい苦みがあって本当に美味しかったです。農家さんを訪問した際には、より多くの人々にクワイを届けたいという思いのもと丹念にクワイを育てていらっしゃるという農家さんのお話を聞かせていただきました。（詳しくは中間報告書②をご覧ください。）私自身、クワイの栽培方法を知り、実際に料理して食べるなかでクワイの素晴らしさに気づきました。学校給食やスーパーマーケットなどの身近な場で県産品を味わったり、地域の農業や伝統工芸を支えている人と交流したりする機会が今後増えればいいなと思います。



(写真：クワイ農家さんへのインタビュー)

- グローバルスピーカーとは何か

このプログラムの名称には「グローバルスピーカー」とあるので「グローバルスピーカー」とは果たしてどのような人物なのか改めて考えてみると、少なくとも次の3つの要素が必要だと思います。

第一に、やはり英語力です。英語であれば異なる言語を母語とする世界中の人々に自分のメッセージを届けることができます。文法や発音が正確な方がもちろん望ましいですが、それらを気にするあまり発言に消極的であっては、自分の意見を伝えられず本末転倒です。間違いを恐れずに積極的に発言すれば、相手も聞き返すなどして理解に努めてくれると思い

ます。実際、フィンドレー大学の学生とディスカッションをした際、私分かりにくく話してしまった部分を再度質問して内容を確認し、私とコミュニケーションを取ろうとする姿勢を見せてくれました。

第二に、発信力です。自分の伝えたいことをプレゼンや SNS でいかに効果的に発信するか、工夫を凝らすことの重要性を今回知りました。プレゼンの技法については Greg 先生の授業で扱い、聴衆の目を引くようなスライド作成に励みました。視覚化するに値するコアメッセージのみを文字に起こしてシンプルさを心がけながらも、デザイン性あるスライドが良いようです。これまでプレゼンの中でもスライド作りが最も苦手な作業でしたが、先生のアドバイスや他のメンバーの作品を参考にし、スライド作成力が向上したと思います。また、埼玉親善大使の活動の一つとして取り組んだインスタグラムでも、思わず次の投稿が楽しみになるような投稿を心がけました。埼玉の魅力を再発見できるような機会をいただいたからにはその経験を個人にとどめず、県内外に発信したかったからです。親善大使という責任ある立場で投稿したことで、自然と発信力が向上したような気がします。

そして第三に、物事を国内と国際の両方の観点からみることです。世界各国の状況に目を向けることも重要ですが、より身近な国内・地元の状況を知らなければ物事の比較軸を持たず、海外の方の関心に応えることも多くの場合できないからです。私はこれまで異文化交流や国際情勢に興味を持つ一方で、正直のところ国内、特に埼玉についてあまり知りませんでした。しかし、日米のコロナ比較のリサーチやそれを発信したり、親善大使として埼玉の魅力を発見したりするなかで、埼玉のことをある程度語れるようになりました。まだまだ真のグローバルスピーカーだとは言えませんが、目標の姿に向けて確実に前進できたと思います。

● OSGS プログラム後のアクション

実りある OSGS プログラムを終え、そこでの学びを振り返るとともに次のアクションをすぐに起こす予定です。まず、英語力のなかでも特にリスニング力の向上に努めます。ネイティブ同士の日常会話レベルの会話スピードについて行くことが目標です。オハイオ州の方とディスカッションをする中で、所々一発で聞き取れなかったのが非常に悔しかったからです。また、せっかく親善大使を経験させていただいたので、今後も埼玉の魅力発見活動に取り組みたいです。具体的には県内のお店やその他公共施設、自然を感じられるスポットに積極的に足を運び、自身の SNS で発信できたらと考えています。将来の選択肢の一つとして外交官になることも考えているので、効果的な文化外交や草の根の交流の意義について考えを深めていきます。そして、県の多文化共生社会の実現に貢献するために「多文化共生キーパーソン」に登録し、県内の外国人と日本の市民の架け橋になります。感染症対応とその背景が各国で異なることを再認識した経験と、情報を分かりやすく発信するスキルがここで発揮されるのではないかと思います。互いの文化・習慣の違いから生じる偏見や軋轢

をなくすことが目標です。どのようなバックグラウンドを持つ人も安心して暮らせるような社会づくりに携わりたいです。

● 最後に

OSGS プログラムではオハイオ州民との交流や親善大使活動を通じて、英語でのコミュニケーション能力や発信力の向上、身近な地域の魅力発見等ができます。オンラインプログラムですが、他の短期留学プログラムでは得られないような学びがありました。応募するか悩んでいる方には積極的に挑戦されることを強くお勧めします！

最後に、このプログラムを立ち上げて下さった県国際課の皆様（特に佐藤さん・磯崎さん）、フィンドレー大学の先生方、プログラム一期生のみんなにこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



(写真：修了式後の同期メンバーとの一枚)